



「十五夜」



みなさんこんにちは。今日は「十五夜^{じゅうごや}」のお話をします。

旧暦では、7月から9月を秋として、その真ん中である8月を中秋^{ちゅうしゅう}と呼びました。8月15日の夜に見られる月は、1年で最も美しい月とされ、お月見をする風習があります。これを「中秋の名月^{めいげつ}」や15日に見られることから「十五夜」と呼んでいます。現在では9月にあたり、今年は9月29日が十五夜です。明日の夜は、ぜひ月を見てみましょう。お月見の時は、日本では十五夜にちなんで、15個の丸い団子を備えます。また、中国ではアヒルの卵の塩漬けが入った月餅^{げっぺい}というお菓子や、丸い果物を供えます。どちらも満月に見立てたものだといわれています。尾張地方では、十五夜を「芋^{いも}名月^{めいげつ}」と呼び、芋の収穫を祝ってお月様に里芋を供えていたことから、団子を里芋に見立てたしずく型にしています。今日の給食では、お月見団子の形に注目しながら食べましょう。これでお話を終わります。